

町内公民館長が推す桜の名所!! ちょっと出かけませんか

世の中、気分が晴れず沈んでいませんか。
こんな時は、うららかな春の光を浴びながら
桜の下、心むひと時を過ごしてはいかがでしょうか。



令和4年3月1日現在

総人口 12,474人
男 6,081人
女 6,393人

世帯数 5,374世帯

島内公民館 電話 47-0264
FAX 40-1264



山田・命と平和の森
ソメイヨシノとしだれ桜
北アルプスを望む

あずさ運動公園
ゲートボール場付近
園児のお花見スポット



松本トンネルから
山田への桜並木

安曇野の一大パノラマを
楽しむ



良い写真が撮れたら
公民館までお寄せ下さい。



貞享騒動で多田加助が松本の刑場に向かった道、十返舎一九が安曇に向かった道、そして、松本五十連隊が有明演習場に通った道です。車の普及とともに衰退し、今は静かに歴史を物語っています。

名前の由来は、養老年間（奈良時代）に開道されたという説や、急坂でよろよろ登るので「ヨホロ坂」と呼んだのが変化したなど諸説あります。道の脇には古墳群があり、かなり古い時代からある道と思われる。

養老坂は、国道19号線を平瀬坂下から東に上がり、松本トンネルに向かう道を横断してアルプス公園北端に至るルートで（地図参照）、かつては安曇と筑摩をつなぐ主要な道でした。塩の道の一部にあたり、ここから岡田の塩倉に出て、松本城下へ運ばれました。

歴史を
たづねる
養老坂

版画には、出っ張った部分に色を乗せて作る「凸版」や、へこんだ部分に色を入れて作る「凹版」の他、凹凸のないシルクスクリーンなど、彫り方や材質でいくつもの手法があります。小学校の図工の授業で作った版画は、凸版だったと知りました。

松本市美術館の所蔵作品を、いくつか映像で見せていただきました。特に草間彌生の作品は、水玉で埋めつくされた空に、はつきりした輪郭の赤

版画の歴史としくみ

美術館アートレクチャー講座

3月3日、島内公民館講堂において、茅野恒秀信州大学人文学部准教授を講師に迎え、30名が聴講しました。

大きな災害をもたらす気候



変動を抑制するために、気温上昇の抑制や温室効果ガス、とりわけCO₂の削減について、世界の国々が数値目標を定めて推進しています。

日本では2050年までに、実質排出ゼロ「カーボンニュートラル」が表明され、長野県や松本市等の全国自治体もそれに追随し、交通・建物・産業・再生可能エネルギーといった分野ごとに、取組みの目安が策定されています。

例えば、電気自動車への乗り換えや住宅の高断熱化、太陽光発電などは、すでに私たちの身近に現れています。

しかし、電気自動車の充電

い富士山がとても印象的でした。草間彌生の原画を、専門の彫師や刷師や紙漉き師などが制作したものだそうです。

また、版画の隅に小さく「54/75」等の数字が書かれていることがあります。これは、事前に制作枚数を決めて、それ以上の作品を作らないという証明の番号だそうです。

今回、版画の見方を教えてもらって、版画を見るのが楽しくなりました。松本市美術館にも多くの作品が所蔵されているので、皆さんも機会があったら見てください。

わたしたちの活動 ⑤ 松島町縁側サロン「さつき会」

さつき会は、「町会の女性たちが元気に活躍できるように松島にしていきたい」との思いから活動をはじめ、今年で5年目になります。

きっかけは、町会の女性たちと話をしている時に、「最近みんな元気がない」「隣りのおばあちゃん達者?」「草もちの作り方教えてもらいたい」等の話題から盛り上がり、気軽に交流できる場(サロン)をつくることになりました。また、昔は縁側で日向ぼっこをしたりスィカを食べたりしましたが、今では「縁側」そのものを知らない人もいます。

そこで毎月1回、参加費100円の女性限定「縁側サロン」をスタートしました。運営は三常会が交替で、準備・進行・お茶等を用意します。お互いの顔を

見て日頃のことや昔のことを話していると、相手の生活・健康の変化を発見することや、自分自身の気づきへつ

ものがたり

おめでとう 縁側サロン3年

ながることもあります。会の名前は活動のなかで話題になり、「さつきの咲く頃に発足したので、さつき会にしよう」と決まりました。2年目からは、市の交付金を活用して講演会や人形劇等で楽しんでいます。5年間で切れるため、令和5年度以降は資金面での検討が必要です。

現在会員は20名程度になりましたが、コロナ禍で活動が難しかったため、普段会えない会員を訪問して、近況を聞いてみたいと考えています。困っている時は手を差し伸べるような関係づくり・活動を目指しています。

代表 石川 孝子

設備不足や太陽光の導入コストなど、普及を鈍化させている課題もありますが、何より産学官の更なる連携による進展が期待されます。

「脱炭素」に向かって私たちができることは限られますが、温暖化等は間違いない進んでいます。そう考えると、2050年は遠い先のことも言えません。今から意識して「自分ができる」チャンスを把握すれば生かす」という考えも大切です。「地域を守り育てるのは住民の皆様」という講師の言葉が胸に残りました。

精巧な「戦艦大和」や「東京駅」、レトロ感ある機関車模型などの展示、Nゲージ鉄道レールを敷設し、電車を走らせるコーナーも好評でした。

出展者の稲田隆さん(WT小宮)は「細かい物を作るのが好きで、出来上がった時の達成感が何とも言えない」、林栄司さん(町)は「孫が喜ぶ

ので作り始めた。子どもたちにも喜んでほしい」と話していました。

模型を前に林(左)・稲田さん